

除染と仮置き場

■ 関小学校などの除染作業が終了しました

町では、子どもの生活空間の安全安心を確保するため、7月から関保育所、関小学校、町民グラウンドの除染作業を実施しました。除染前の空間線量が平均0.19～0.24マイクロシーベルトだったのに対し、作業後は平均0.10～0.13マイクロシーベルトと、作業前に比べおよそ半減しました。町では、定期的なモニタリング調査を行うなどの監視対応をしていきます。



除染により覆土された関保育所（左）、関小学校（中央）、町民グラウンド（右）

■ 除染除去土壌等の「仮置き場」決定

《仮置き場設置に関する住民説明会を開催》

9月19日、横川集落センターを会場に、除染除去土壌等の仮置き場設置に関する説明会を開催しました。関小学校などの除染除去土壌等の保管について、仮置き場の選定が必要と判断し、柏木山放牧場隣接の町有地を仮置き場の候補地とした経緯と、今後の対応が話されました。

住民の方からのご意見では、仮置き場の長期化や施設の管理に対して懸念する声もありましたが、①学校等から発生した汚染土に限ること、②安全な施設の構造、適正な保管管理を行うことを説明し、出席者のご理解を得ることが出来ました。

現在は、学校等の除染で発生した汚染土（1トン袋で約200個）を仮置き場予定地の隣接地に一時保管しております。早期に仮置き場を設置するため、国等との協議中で年内の完成を目指しています。



横川集落センターで開催された住民説明会

平成23年度

公立刈田総合病院の経営状況

― 診療機能の充実、高度化に努めました ―

平成23年度は、「公立刈田総合病院改革プラン」に基づき、回復期リハビリテーション病棟を立ち上げるなど、地域の基幹病院として病院長を中心に、全職員一丸となり、診療機能の充実と収入の確保、経費の節減に努めてまいりました。

また、医療機器の整備においては、循環器系X線診断装置（心カテ装置）、デジタル乳房X線撮影装置（マンモグラフィ）等を整備し、住民の皆様へより高度化した医療を提供できるよう努めてまいりました。

平成22年度と比較して、患者数は、延べ数で、入院が7,421人増加して70,240人（入院患者数のうち、回復期リハビリテーション病棟の患者数は、10,897人、15.5%）に、外来が3,454人増加して124,776人となりました。

また、救急部門の状況は、救急外来1日平均患者数が、1.1人増加して21.9人に、このうち1日平均の救急車搬送患者数は、4.2人となりました。

平成23年度は、58億939万6千円となりました。結果、本年の収支差し引きは、4億7,341万6千円の純損失となりましたが、特別損益と現金支出を伴わない減価償却費を除いた実質的な現金収支では、9,484万3千円の利益となりました。

◆資金不足比率の公表について
資金不足比率は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、公営企業において公表することとされており、公表指標で、これが経営健全化基準以上となった場合には、経営健全化計画の策定などの行財政上の措置が講ぜられます。

算定基礎数値である、平成23年度の流動負債額は5億8,052万4千円、流動資産額は15億1,453万7千円で、流動資産の額が流動負債の額を上回っているため資金不足はありませんでした。

【資金不足比率の公表について】

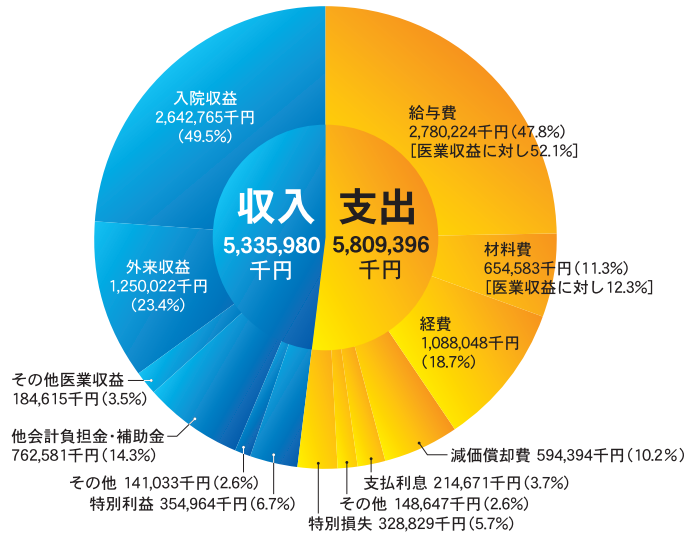
特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
公立刈田総合病院事業会計	—	20.0%

※資金不足額がないので、「—」を記載しています。

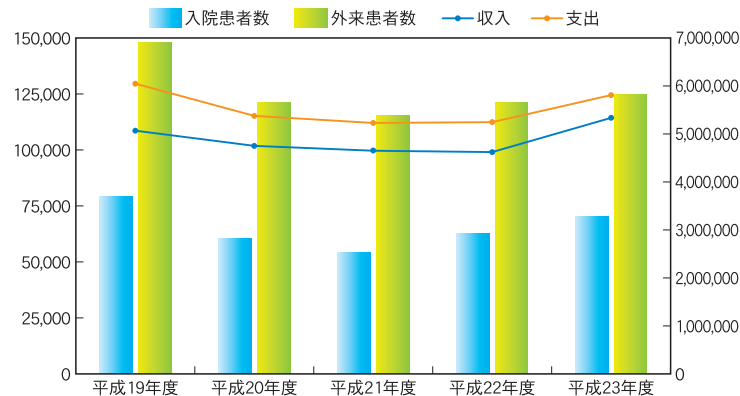
【備考】

- ・ $資金不足比率 = \frac{資金の不足額}{事業の規模}$
- ・ $資金不足額 = (①流動負債 + ②建設改良費等以外の経費の財源に当てるため起こした地方債の現在高 - ③流動資産) - ④解消可能資金不足額$
※算定結果が「△」となる場合は、資金不足がないことを示します。
※②、④額については、当病院には該当額がありません。
- ・ $事業の規模 = 営業収益の額（医業収益） - 受託工事収益の額$
※受託工事収益の額については、当病院には該当額がありません。

【平成23年度 収入・支出】



【年度別状況】



【平成23年度 診療科別患者数】

